

- 上手雄貴・藤本博文・吉富博之, 2003. 四国で採集したセスジダルマガムシ属, 甲虫ニュース, (142): 18.
- 松田真紀子, 2018. 下関市のセスジダルマガムシ属の一種の生態. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, 10: 145-153.
- 松田真紀子・川野敬介, 2014. 下関市三軒屋海岸の生物3種. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, 6: 131-132.
- 森 正人, 2017. 兵庫県の水生ガムシ類. きべりはむし, 39 (2): 42-52.
- 中島 淳・緒方 健, 2004. 福岡県・佐賀県におけるセスジダルマガムシ属4種の採集記録. 甲虫ニュース, (147): 13-14.
- 山地 治, 2012. 岡山県産甲虫目録2012., 401 pp. 公益財団法人岡山県環境保全事業団.
- 吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セスジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, (130): 5-11.



図1. コプリメツノゴミムシダマシ.

(辻 雄介 742-0344 岩国市玖珂町 6450-48)

(相本篤志 747-0806

防府市石が口 3-10-10-2-B202)

本種はこれまでおもに近畿地方以西から記録され, 春日山が東限のようである. 今回の記録は, 本種の東限記録かと思われる.

【短報】ゴミムシダマシ科2種の岐阜県からの記録

フトヒメツノゴミムシダマシ *Toxicum morii* (Masumoto et Akita, 2008) とコプリメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus boleti* (Lewis, 1894) は, これまで岐阜県からは記録がない. この2種の岐阜県初記録を報告する.

報告にあたってフトヒメツノゴミムシダマシを採集し, 発表を快諾していただいた宮野昭彦氏(岐阜県各務原市)に厚くお礼申し上げる.

引用文献

- 秋田勝己・乙部 宏, 2015. 鈴鹿市でフトヒメツノゴミムシダマシを採集. ひらくら, 59 (1): 21.
- 秋田勝己・益本仁雄, 2006. 日本産ヒメツノゴミムシダマシ属(ゴミムシダマシ科)について. 甲虫ニュース, (155): 1-7.
- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 304 pp. むし社, 東京.

(豊島健太郎 500-8227 岐阜市北一色 3-12-14)

1. フトヒメツノゴミムシダマシ *Toxicum morii* (Masumoto et Akita, 2008)

1♂, 岐阜県海津市南濃町羽根谷, 4. VIII. 2016, 宮野昭彦採集(灯火), 筆者保管.

本種は兵庫県を基産地として2008年に記載され, その後福井県, 京都府, 岡山県, 三重県などで採集されている. 秋田・益本(2016)によると急速な分布の拡大傾向が伺え, 移入種の可能性が疑われるとされる.

2. コプリメツノゴミムシダマシ *Cryphaeus boleti* (Lewis, 1894) (図1)

1♂, 岐阜市達目洞, 6. VII. 2017, 筆者採集・保管(図). 1♂, 同, 13. VII. 2017, 筆者採集・保管.

本種は秋田・益本(2016)によると春日山のような低山地での採集例もあるが, 標高1,000m~1,500mのブナ帯での採集例が多いとされる. 岐阜市達目洞は金華山東麓の照葉樹林のよく保存された標高35mほどの低地である. 部分枯れのコナラ大径木の枯死部から採集した.

【短報】オニダナエテントウダマシ岐阜県からの記録

オニダナエテントウダマシ *Danae shibatai* Nakane, 1958 (図1) は, 基産地の奈良県(佐々治, 1980)のほか群馬県(沢田, 1983), 青森県(尾崎, 2000), 東京都(亀澤, 2011)から知られるが, 他にはほとんど記録を聞かない種である.

筆者は岐阜県産の本種の標本を蟹江昇氏(愛知県瀬戸市)よりいただいたので, 岐阜県初記録種として報告する.

1 ex., 岐阜県大野郡白川村大白川, 7. VIII. 2012, 蟹江昇採集, 筆者保管.

報告にあたり貴重な標本を恵与され, 発表を快諾された蟹江昇氏, 文献でお世話になった亀澤洋氏(川越市), 高井泰氏(関市)に厚くお礼申し上げる.



図1. オニダナエtentouダマシ.

引用文献

尾崎俊寛, 2000. 青森県の甲虫(3) —tentouダマシ科, マルtentouダマシ科—. *Celastrina*, (35): 61-75.
 亀澤 洋, 2011. 東京都から採集されたダナエtentouダマシ属2種の記録. *寄せ蛾記*, (141): 20-21.
 佐々治寛之, 1980. 日本産tentouダマシ科概説. *甲虫ニュース*, (51): 1-4.
 澤田和宏, 1983. オニダナエtentouダマシの採集記録. *甲虫ニュース*, (61): 5.

(豊島健太郎 500-8227 岐阜市北一色3-12-14)

【短報】沖縄本島北部でスダジイの腐朽部から採集されたコメツキムシ

沖縄本島北部でスダジイの立ち枯れ及び倒木の褐色腐朽部から2種のコメツキムシを採集しているので報告する。

1. ノムラアカコメツキ *Ampedus (Parelater) nomurai* Ôhira, 1968

1 ♀ (図1), 沖縄県国頭郡国頭村安波, 9. III.



図1. ノムラアカコメツキ ♀.

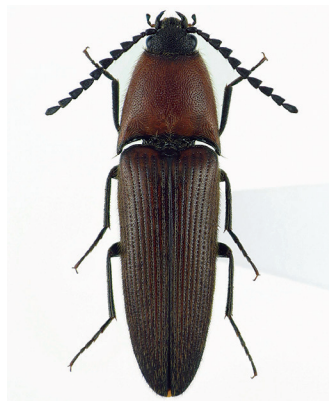


図2. クニヨシムネアカコメツキ ♂.

2018, 緒方裕大 採集.

スダジイ立ち枯れの褐色腐朽部が露出した部分に静止している個体を採集した. 沖縄島では大平(2000)と大平・松尾(2000)がすでに本種を記録しているので, これが2例目の記録である. なお, 有本は1984年7月2日に奄美大島の中央林道から大阪へ持ち帰ったスダジイの赤褐色をした腐朽部から翌年の3月に本種1♀の羽脱を観察している. 今回得られた個体は, スダジイの腐朽部から羽脱した直後と思われる, 偶然その部分に静止していたとは考えにくい. これらのことから, スダジイの腐朽部は本種幼虫のホストの一つであることが判明した.

2. クニヨシムネアカコメツキ *Ampedus (Miwaelater) aritai kuniyoshii* Ôhira, 1968

1 ♂ (図2), 2 ♀ ♀, 沖縄県国頭郡国頭村大南国林道, 8. III. 2018, 1 ♂, 沖縄県国頭郡国頭村安波, 9. III. 2018, 緒方裕大 採集.

採集された個体は全てスダジイの赤褐色腐朽部の割り出しで得た. 本種も前種と同様に幼虫のホストはスダジイの腐朽部であることが判明した.

末筆ながら今回の調査に当たり, 現地を案内頂いた藤川浩明氏(沖縄県名護市)に心からお礼申し上げます.

引用文献

大平仁夫, 2000. ノムラアカコメツキ沖縄島に分布. *月刊むし*, (349): 42-43.
 大平仁夫・松尾照男, 2000. 松永斎大採集の沖縄産コメツキムシ類. *北九州の昆虫*, 47(2): 105-115.

(緒方裕大 616-8413

京都市右京区嵯峨大覚寺門前堂ノ前町22-14)

(有本久之 558-0052

大阪市住吉区帝塚山西3-4-21)